

2017年7月5日 Vol.86

### 土壤汚染浄化サービスで見直される企業

外来の人食い蟻、ヒアリが関西で見つかり、アース製菓(4985)やフマキラー(4998)など、その関連銘柄が人気化しています。また関連かどうか見分けがつかないアサント(6073)のようなシロアリ防除サービス会社まで連れ高しています。かつての鳥インフルエンザの流行を懸念した際に防護服のアゼアス(3161)が突飛高となったように未知なる材料に飛びつく動きが見られます。個人投資家のホットマネーが動いているだけに侮れませんが、冷静に考えるとこれが業績に反映されるにはまだ相当の紆余曲折が予想されますので気をつけたいところです。

ヒアリにしろ、シロアリにしろ今後も得体の知れない土中の生物との戦いは続くとの達観した見方をするのであれば、それに関連したサービスを手掛ける企業の未来は明るく成長が期待されますが、短期的な行き過ぎには注意が必要だと言えます。本日はその蟻が住む土との戦いに挑戦する企業としてエンバイオ・ホールディングス(6092)を紹介しておきます。同社は2014年3月に東証マザーズに上場した土壤汚染対策事業を柱にした企業です。現在、話題となっている豊洲市場でもベンゼンなどの汚染物質除去が今だに課題となっていますが、一般的には土の表面を掘削して処理場に運んで除去する方法が取られており、その方法が全体の7、8割を占めているとされます。一方で同社が得意にしている対策は原位置浄化という方法でこれには薬剤での処理や熱脱着処理などがあり、コストが掘削除去に比べ圧倒的に安いのでその良さが認知されるにつれて事業規模が拡大しつつあるという話です。社会的に土壤汚染が問題となる中で市場規模が拡大し、その中で同社の原位置浄化の手法も評価を高めてきたという状況です。

同社ではそうした処理対策コストが低く抑えられる技術をバックボーンにしたブラウンフィールドと呼ばれる不動産ビジネスにも子会社エンバイオリアルエステートを通じて参入。主に中小企業が抱える汚染された土地を仕入れて浄化し転売するビジネスを拡大させようとしています。こうした事業から派生して安定した収益を得るためのソーラー発電事業や中国での土壤汚染対策事業などにも注力。どちらかと言うと地味な業態のような印象ではありますが前期までの先行投資期を経て今期からの中長期的な業績拡大を目論んでいます。今期業績の変化で上場後3年近くになろうというのに低迷が続いた株価はポジティブな内容の今期業績見通しからこのところ一気に見直しの動きが見られます。石の上にも3年でようやく投資家は報われた格好ですが、成長はこれから本格化するものと期待されます。

折しも土に絡んで先般より3Dレーダーを用いた世界初の道路状況の高速劣化診断システムを開発した土木管理総合試験所(6171)の株価が人気化しました。社会資本の老朽化対策を技術力で効率よく行おうとする企業の登場は今後の投資の良いヒントになりそうな予感がします。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)